

(公財) 国連大学協力会 2024 年度事業報告書

FY2024 Operational Report

The Japan Foundation for the United Nations University

【基本方針】

【Basic Guidelines】

公益財団法人国連大学協力会は、日本・東京に本部のある国際連合大学（以下「UNU」）の活動を支援することを目的としており、日本国内における UNU の周知と、UNU 本部および UNU 本部内にある国連大学サステナビリティ高等研究所（以下「UNU-IAS」）の教育・研究活動への支援を行っている。

UNU は 1975 年に創設されたグローバルなシンクタンクであり大学院の教育機関で、人類の生存、開発、福祉など国連とその加盟国が関心を寄せる緊急性の高い地球規模課題の解決に取り組むため、共同研究や教育を通じて寄与することを使命としている。この使命を果たすため、国連大学は国連加盟国の世界を先導する大学や研究機関と連携をとることで、国際的な学術機関ならびに国連システム組織との架け橋という役割を担っている。

UNU の活動は、2015 年に国連で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」と密接に連携し、17 の持続可能な開発目標（SDGs）のすべての範囲と一致し、それらを網羅している。UNU は、12 カ国にまたがる 13 カ所の研究所に、約 950 名の研究者とサポートスタッフを配し、学術的な根拠に基づく解決策を見出し、国連システムと国連加盟国が SDGs に掲げられているターゲットを実現するための現実的な政策を提言している。また、UNU は、若手の学者が知識の拡充、応用、普及に寄与する能力を高められるようにするため、専門的な教育を受ける機会を整備し、大学院学位プログラムを複数提供している。グローバルな学習は 1980 年代後半から UNU の研究の重点分野となっており、2005 年からは持続可能な開発のための教育（ESD）プロジェクトを通じて地域や地方の ESD イニシアチブをつなぐ学習ネットワークを促進している。

UNU-IAS は独自の教育コースやプログラムを幅広く提供している。分野横断的な問題に力を入れ、今後発生する問題や課題に効果的に対処するために必要な知識や技術を未来のリーダーが身に付けるサポートをし、UNU-IAS 大学院学位プログラム、専門分野における科目等履修プログラムやコースを実施し、さらに若手研究者が UNU の政策専門家と共に働きながら学べる機会も提供している。また UNU-IAS は、革新的な研究手法と多様なアプローチを駆使し、従来の考え方に挑むことで、地球規模で懸念される課題に対して独創的な解決策を生み出そうとしている。

2025 年に UNU が 50 周年をそして本法人が 40 周年を迎えることから、本法人の 2024 年度の事業活動は、UNU の活動を広く周知することに努め、UNU 本部の活動支援および UNU-IAS 大学院プログラムへの奨学金提供をはじめとする教育プログラムおよび研究活動を支援し、本法人の公益事業のさらなる活性化を図った。

The Japan Foundation for the United Nations University (JFUNU) aims to support the activities of the United Nations University (UNU) with its headquarters in Tokyo, Japan. To fulfil this purpose, JFUNU has been disseminating UNU in Japan, supporting UNU Headquarters and capacity development as well as research of the United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS) in UNU Headquarters.

UNU is a global think tank and postgraduate teaching organization established in 1975 and its mission is to contribute, through collaborative research and education, to efforts to resolve the pressing global problems of human survival, development, and welfare that are the concern of the United Nations, its Peoples, and Member States.

In carrying out this mission, UNU works with leading universities and research institutes in UN Member States, functioning as a bridge between the international academic community and the United Nations system.

For this reason, the UNU programmes align closely with the 2030 Agenda for Sustainable Development adopted by the UN in 2015 and generally encompass the full range of the 17 Sustainable Development Goals (SDGs). UNU has approximately 950 researchers and support personnel, working in 13 institutes located in 12 countries. UNU organises specialised training opportunities and offers several postgraduate degree programmes that enhance the capability of young scholars to contribute to the extension, application, and diffusion of knowledge. Global learning has been a focus area of UNU research since the late 1980s, and the Education for Sustainable Development (ESD) project has been fostering learning networks among regional and local ESD initiatives since 2005. They are developing solutions based on academic efforts and advocating realistic policies that will enable the UN system and the UN Member States to reach the targets encapsulated in the SDGs.

UNU-IAS offers a range of unique educational courses and programmes. These focus on cross-cutting issues and help equip the leaders of tomorrow with the knowledge and techniques that they will need to effectively address emerging problems and challenges. UNU-IAS awards postgraduate (master's and doctoral) degrees; organizes specialized non-degree programmes, and courses; and provides opportunities through which young researchers can work alongside, and learn from, UNU policy experts. Additionally, UNU-IAS applies innovative approaches and research methods to challenge conventional thinking and develop creative solutions to emerging issues of global concern.

As UNU will celebrate its 50th anniversary and JFUNU will celebrate its 40th anniversary in 2025, JFUNU in 2024 strived to disseminate, continued to support UNU Headquarters activities and capacity development including scholarship offered and research of UNU-IAS, and further revitalized our public benefit services.

【事業報告】【Operational Report】

I. 国連大学の活動への理解と支援を高めるための広報・キャンペーン

[Outreach Campaign on UNU's Activities]

1. 広報資料の作成 [Promotional Materials]

(1) ニュースレター（継続事業） [Newsletters] (On-going Mission)

UNU-IAS の大学院生の生活ぶりや本法人が大学院生を対象に主催したイベントへの参加の様子などを掲載した。

2024 年度発行：47 号・48 号・49 号・50 号

- ・jfUNU Newsletter47 号：2 月発行 400 部

2023 UNU School Visit 特集

- ・jfUNU Newsletter48 号：5 月発行 400 部

JFUNU Study Tour（Shimadzu Tokyo Innovation Plaza 見学会）、文楽鑑賞会

- ・jfUNU Newsletter49 号：6 月発行 400 部

JFUNU Study Tour（三菱 UFJ 銀行見学会）、公開シンポジウム「持続可能な社会の構築における科学の役割を考える」、令和 6 年能登半島地震緊急支援募金

- ・JFUNU Newsletter50 号：12 月発行 400 部

Discover Japan～学生たちが触れた日本、Ceremonies～心に残る触れあい

(2) 各種パンフレット（継続事業） [Brochures] (On-going Mission)

本法人の活動概要や UNU の活動概要を分かりやすく解説したパンフレットや募金趣意書を、賛助会員や企業関係者を中心として幅広く頒布した。

2024 年度発行：4 種

- ・「国連大学と国連大学協力会 2024」：5 月発行 1,500 部（本法人の活動内容）

- ・「国連大学・国連大学サステナビリティ高等研究所/大学院プログラム支援募金 募金趣意書」：
3 月発行 1,500 部

- ・「国連大学見学ツアー」：10 月発行 200 部

- ・「身近な支援のご紹介（チャリボン、キモチと。、つながる募金）」：4 月発行 1,500 部

(3) 国連大学 50 周年国連大学協力会 40 周年記念誌の出版（新規事業）

[Publication of the UNU 50th and JFUNU 40th Anniversary] (New Mission)

国連大学 50 周年を機に、UNU をより多くの人に周知し、UNU 及び国際問題への理解と関心を高めることを目的とし、中学・高校生、大学生、教員、ビジネスパーソンを含む一般市民を読者層とした書籍『国連大学～グローバルイシューにどう取り組むか（仮）』（発刊時期未定）に掲載するインタビュー等を行った。

- ・単独インタビュー：2024 年 10 月 30 日 中満泉（国連事務次長・軍縮担当上級代表）

- ・単独インタビュー：2024 年 11 月 22 日 チリツイ・マルワラ（国連大学学長）

- ・鼎談：2024 年 11 月 25 日 チリツイ・マルワラ（国連大学学長）、

小宮山宏（国連大学協力会理事長）、藤原帰一（国連大学協力会評議員）

2. インターネットによるキャンペーン [Campaigns through Internet]

(1) ウェブ活用による広報の拡充（継続事業） [Updating of Website] (On-going Mission)

タイムリーに情報を届けられるよう、ウェブサイトの更新を週2~3回程度行いさらにSNSも活用した。UNUの活動内容をより広範に紹介し、イベント情報の告知や記事の紹介を積極的に行い、国連大学協力会の活動についても多く発信した。

(2) メールマガジン（継続事業） [E-mail magazine] (On-going Mission)

賛助会員、UNUや国連大学協力会の情報を直接的に希望する人々、UNU Alumni Association（国連大学人材育成コースの修了生同窓会）のメンバーに、UNUおよび国連大学協力会の様々なイベント案内や記事の紹介を中心に、週1回配信した。

(3) 若年層への広報活動（継続事業） [Outreach to Young People] (On-going Mission)

近年、中学生・高等学校生・大学生の間でSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）への関心が高まり、これら若年層の要望に応じてUNU School Visit（国連大学見学会）という形式をとった広報活動を実施した。UNU及び国際問題への理解と関心を高められるよう、UNUと協力し組み立てたプログラムに基づき、小学生から社会人まで幅広い年代を対象とする。

2024年度は、国連大学会議場を使用した会議やイベント開催の増加に伴い、会議場見学が可能な日が減ったことから、実施件数は昨年度の31件と比べてやや減少し、24件となった。その一方で、社会人の見学申し込みが増加し、ロータリークラブや国連大学本部ビル内に事務局があるグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンにも提供した。

(4) ロータリークラブ等での広報活動（継続事業） [Outreach to the Rotary Clubs, etc.] (On-going Mission)

UNUの活動を幅広く広報するため、地域の各ロータリークラブ等での講演・卓話機会の獲得に努めた。また、国際ロータリー第2750地区千代田グループ「インターシティ・ミーティング」の国連大学5階エリザベスローズ国際会議場での開催に協力した。なお、この協力により千代田グループから国連大学協力会へ寄付による支援を得た。

II. 地球規模課題解決に関する知識普及のための講演会・セミナー・シンポジウム等

[Lectures, Seminars, and Symposiums to Disseminate Knowledge regarding Solutions for the Global Issues]

1. 講演会（継続事業） [Lectures] (On-going Mission)

2024年度は実施に至らなかった。

2. セミナー・シンポジウム等（継続事業） [Seminars and Symposium, etc.] (On-going Mission)

2024年度は、2月にUNU-IASとの連携のもと、茨城県と共催で『茨城県高校生国連グローバル・セミナー』をOnline（Google Meet）と対面のハイブリットで実施し、茨城県下の高校生39名が参加した。また、2024年5月にUNU-IAS、石川県等と共催で、『能登復興支援シンポジウム～能登の創造的復興に向けて～』をOnline（Zoom配信）と対面のハイブリットで実施し、参加者はOnline342名、来場149名の計491名に達した。

III. 国連大学への助成活動 [Grants for the United Nations University]

UNUへの助成に当たっては、事前にUNU関係者との連絡調整のもとに助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成対象事業の選定・助成額配分などについては、本法人の「助成諮問委員会」の十分な審議を経て行った。（各事業への助成額は附属明細書を参照）

1. 教育活動への助成 [Grants for UNU Capacity Development Programmes]

(1) 国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムの大学院生奨学金助成（継続事業）

[Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes] (On-going Mission)

UNU の実施する大学院プログラムのうち、日本・東京にある UNU-IAS が実施する大学院プログラム（サステナビリティ学修士課程および同博士課程）の大学院学生に対し、生活費を中心とした奨学金を助成した。2024 年度は、修士課程学生 4 名、博士課程学生 5 名、合計 9 名に対し、2024 年 12 月に 2024 年 9 月～2025 年 8 月まで 1 年間分の奨学金を助成した。また、冠奨学生（*）については、修了時には支援者へお礼の表敬訪問を、来日時には支援者へ来日挨拶の表敬訪問を対面で行い、支援者とのつながりを密接に行った。

*冠奨学生…jfScholarship 特別賛助会員の企業や個人が支援している学生で、奨学金名にその企業や個人名を冠している。

(2) 国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムの教育活動に対する助成（継続事業）

[Education Support Grants for UNU-IAS Postgraduate Degree Programmes] (On-going Mission)

UNU-IAS における大学院教育活動の充実を図るため、修士課程学生各学年 1 名ずつの授業料相当額を助成するもので、2024 年度は 2 名分を助成した。また、2023 年度からの授業料増額にともなう助成金増額依頼に対しても速やかに応じ、2024 年度に 2023 年度増額分を助成した。

(3) 国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムの機材整備等に対する助成（新規）

[Grants for UNU-IAS Equipment maintenance, etc] (New Mission)

UNU-IAS 大学院プログラムの実施に際し、現在のオンライン会議システムの経年劣化にともなう配信不具合を改善し大学院教育の充実を図るため、オンラインでの講義配信にかかる機材整備等に助成した。

(4) 国連大学サステナビリティ高等研究所の実施する短期研修への助成（継続事業）

[Grants for Short-term Seminar by UNU-IAS] (On-going Mission)

2024 年度は、2024 年 8 月に 4 日間、令和 6 年能登半島地震で被災した金沢市および白山市で開催された国連大学グローバル・セミナー [UNU Global Seminar] に助成した。このセミナーには、国内に在住する大学の学部生、大学院生、若手の社会人が多く参加し、現代社会が直面している地球規模の問題と国連の取組みについて意識を高めることを目的に、講演やグループ討論が実施された。

特に 2024 年度は、震災からの復興、防災、生態系の再生、保全および持続可能な活用に焦点を当て行われ、参加者は座学とフィールド体験を通じて、持続可能な地球と社会へ向けたレジリエンス（回復力）の構築というテーマへの学びを深めた。

2. 研究活動への助成（継続事業） [Grants for UNU Research Projects] (On-going Mission)

UNU-IAS の行う研究活動に対し必要に応じて助成してきたが、2024 年度は助成対象プログラムがなかったため、実施しなかった。

3. 国連大学の教育・研究環境整備のための助成（継続事業）

[Grants for Maintenance of UNU Educational and Research Environment] (On-going Mission)

(1) 国連大学本部における教育・研究のための施設整備費（継続事業）

[Maintenance of UNU Educational and Research Facilities] (On-going Mission)

(2) 国連大学図書館の蔵書購入費（継続事業）

[Purchasing Books for UNU Library] (On-going Mission)

2024 年度も UNU の教育・研究活動上の環境整備に対して助成した。

IV. 地球規模課題解決のための研究及び社会の取り組みについての調査・研究

[Inquiry/Study related to Researches and Social Efforts to Settle the Global Issues]

2024年度は、募金活動新規開拓に向けて、各企業におけるサステナビリティに関する取組みについて資料・情報収集を行った。

V. 国際相互理解の促進等に関する事業 [Promotion of International and Mutual Understanding]

1. 国際情報交流事業（継続事業） [Global Information Exchange] (On-going Mission)

世界各国で活躍する修了生たちと賛助会員、日本人学生や学識者との国際情報交流の機会を講演会やシンポジウム等と連動して提供してきたところだが、2024年度は実施しなかった。

UNU 教育プログラム修了生からなる UNU Alumni Association は、本法人が 2007 年に設立し、その事務局を担っており、毎年登録データの更新を行っている。2024 年 12 月現在の登録者は 1486 名。

2. 日本文化体験事業（継続事業） [Japanese Culture Experience] (On-going Mission)

世界各国から日本にやってくる UNU の大学院学生に日本文化や日本の社会についての理解を深めてもらうことを目的としており、公益財団法人森村豊明会からの助成金を活用して実施した。

- i. 2024 年 06 月 06 日 歌舞伎鑑賞会（参加院生数 11 人）
解説 歌舞伎のみかた/恋飛脚大和往来「封印切」@サンパール荒川
- ii. 2024 年 09 月 20 日 文楽鑑賞会 Discover Bunraku（参加院生数 2 人）
伊達娘恋緋鹿子/解説 文楽の魅力/夏祭浪花鑑@新国立劇場
- iii. 2024 年 07 月 11-12 日 JFUNU Peace Study Tour 広島見学会（参加院生数 19 人）
1 日目 平和記念公園/被爆体験講話/平和記念資料館
2 日目 厳島神社/広島大学との交流会
- iv. 2024 年 09 月 25-26 日 JFUNU Study Tour YKK 見学会（参加院生数 9 人）
1 日目 YKK 見学およびレクチャー
2 日目 五箇山合掌造り/和紙すき体験
- v. 2024 年 12 月 09 日 JFUNU Study Tour 鎌倉見学会（参加院生数 11 人）
坐禅体験@円覚寺/精進料理/円応寺/鶴ヶ岡八幡宮/鎌倉彫レクチャー/
大仏（高德院）

3. 災害復興支援事業（新規事業）

[Disaster Recovery Support] (New Mission)

この事業は、国内外で発生した甚大な災害に対し被災地域の人々への支援及び被災地域の復興を目的に、人類の生存や福祉、発展に関わる緊急で地球的な課題解決のために、国民の各界各層及び世界各国の人々に呼びかけて実施する災害復興支援事業である。

2024 年 1 月 1 日の令和 6 年能登半島地震により、金沢市にある国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニット（UNU-IAS OUIK）に大きな被害はなかったが、UNU-IAS OUIK と活動連携をしている団体が被災したため、UNU-IAS OUIK の支援依頼により、復興に取り組んでいる 5 団体へ助成した。

なお、助成対象の審査には本法人の助成諮問委員会あたり、審査に際しては国連大学が実施する地球規模課題解決の研究教育活動との関連性を重視した。

VI. 募金活動 [Fundraising Activities]

UNU は他の一般的な国連機関と異なり加盟国の分担金に基づく国連予算からの配分を全く受けていないことから、本法人は創設以来、継続的に UNU 支援のための募金活動を実施してきた。2024 年度は、2021 年に策定された募金活動計画に沿って、募金推進委員会のもと、新規先を開拓するなど積極的な活動を展開した。(寄付金収入額は附属明細書を参照)

1. 国連大学・国連大学サステナビリティ高等研究所/大学院プログラム支援募金活動 (継続事業)

[Fundraising Activities for UNU, UNU-IAS and UNU-IAS Postgraduate Programmes] (On-going Mission)

UNU 本部の諸活動及び UNU-IAS 大学院プログラム創設時より実施してきた大学院学生に対する奨学金と UNU-IAS 大学院プログラムが行う教育研究活動等への支援のための募金活動。UNU を支援するために国連大学協力会が行う事業活動への支援を含む。

(1) 単発寄付 (継続事業) [One-off Donation] (On-going Mission)

◆一般寄付金 (継続事業) [General Donation] (On-going Mission)

UNU 本部および UNU-IAS が実施する研究教育プロジェクト事業等や本法人の活動への、任意の時期に任意の金額で支援を得ることを目的としている。新規開拓先として、本法人理事の紹介企業である株式会社半導体エネルギー研究所に働きかけ、新たに寄付を受け入れることができた。

(2) 継続寄付 (継続事業) [Continuous Donation] (On-going Mission)

◆jfScholarship 賛助会員 [法人/個人] (継続事業)

[Fundraising Activities for the Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes (Corporate/Individual)] (On-going Mission)

UNU-IAS の大学院学生、特にアジア、アフリカ等開発途上国出身の学生に対する奨学金および大学院が行う教育活動への支援を得ることを目的としている。新規開拓先として本法人理事の紹介企業3社 (株式会社半導体エネルギー研究所・株式会社IHI・東日本旅客鉄道株式会社) および UNU 広報部紹介の企業 1 社 (富士通株式会社) に働きかけ、新たに株式会社半導体エネルギー研究所より 5 年間継続の寄付を受け入れることができた。また、奨学財団 6 団体 (公益財団法人みずほ国際交流奨学財団・公益財団法人かめのり財団・公益財団法人佐藤陽国際財団・公益財団法人小林財団・一般財団法人新技術振興渡辺記念会・公益財団法人ロータリー米山記念奨学会) にも UNU-IAS 大学院プログラムの協力を得ながら働きかけ、公益財団法人みずほ国際交流奨学財団が 2025 年に UNU-IAS 大学院プログラムの学生 1 名に奨学金を支給することとなった。

◆一般賛助会員 [法人/個人 (社会人/学生)] (継続事業)

[Donation from Supporting Members (Corporate/Individual)] (On-going)

UNU 本部の活動、大学院教育活動及び国連大学協力会の事業活動に対して継続的・安定的な支援を得ることを目的とし、現存会員の継続と新規会員獲得のための様々なアプローチを行った。

(3) 多様な募金活動 (継続事業) [Various Fundraising Activities] (On-going)

UNU が実施する研究教育プロジェクト等への助成及び本法人の事業活動へ、任意の時期に任意の金額で支援を得る形の募金。昨年度に続き、古本回収(チャリボン)や古物買取(キモチと。)、ポイントの寄付利用(つながる募金)といった多様な形態での募金を UNU School Visit や website、メールマガジン等で呼びかけた。

特に各募金活動プラットフォームの寄付強化期間には、メールマガジンによる呼びかけを行った。

古本回収(チャリボン) 1月1日～1月9日、3月1日～3月31日、6月1日～6月30日、
7月6日～8月6日、9月1日～9月30日、11月1日～11月9日、
12月1日～12月31日

(4) 国連大学 50 周年基金への募金活動 (新規事業)

[Fundraising Activities for UNU 50th Anniversary Fund] (New Mission)

UNU が 50 周年を迎えるにあたり、学生に奨学金を提供し、日本および国外の研究者を国連システムに繋げ、公的活動を展開しグローバル・サウスおよび世界中で持続可能な開発を支持することを目的に寄付を募る国連大学の募金活動を支援する。

2024 年度は、経済団体連合会幹事会でのチリツィ・マルワラ国連大学学長講演 (2024 年 9 月 17 日) の機会提供に協力した。

(5) 令和 6 年能登半島地震緊急支援募金活動 (新規事業)

[Fundraising Activities for 2024 Noto Peninsula Earthquake Relief] (New Mission)

2024 年 1 月 1 日の令和 6 年能登半島地震により、金沢市にある UNU-IAS OUIK と活動連携をしている団体が被災したため、UNU-IAS OUIK の支援依頼により、募金活動を行い復興を支援する。

2024 年度は、5 月に Online と対面のハイブリットで実施した『能登復興支援シンポジウム～能登の創造的復興に向けて～』(UNU-IAS、石川県等と共催) の会場で募金活動を行ったほか、UNU School Visit や website、メールマガジン等で募金を呼びかけた。

VII. 本法人の管理運営活動 [Management and Operational Activities of JFUNU]

本法人は、公益財団法人への移行後 14 年が経ち、諸活動は着実に実施され、UNU との円滑な協力体制の下、活性化している。また、理事会、評議員会及び監事会議の他、助成諮問委員会、資産運用委員会や募金推進委員会を適切に開催し、各会議による助言・指導のもと、執行理事の権限等の役割分担に基づいて、公益法人としての社会的責任を十分に果たしてきた。

2024 年度は、積極的な募金活動を行い寄付金収入額が増加したことに加え、運用益が若干増加したこともあり、本法人のキャッシュアウトが大幅に減少し、運用資産の取り崩しは免れた。

しかしながら、依然として支出額に大幅な削減要因はないため、キャッシュアウトについては寄付金収入に拠るところが大きく、財務運営は引き続き厳しい状況であり、次年度以降も積極的な募金活動が必要であることを確認した。

また、2025 年の UNU 50 周年 本法人 40 周年に向け、国連大学創設 50 周年記念支援活動検討委員会を中心に、国連大学の活動を支援するための募金活動など具体的支援策の検討に入った。

<公益財団法人国連大学協力会 2024 年度事業報告 附属明細書>

2024 年度 寄付金収入及び国連大学への助成実績一覧

<FY2024 Operational Report Annex>

寄 付 金 収 入 (Donations and Dues)		金 額
単発寄付		10,297,712 円
・ jfScholarship 指定寄付	個人 1 件 (1,000 円) 法人 1 件 (16,000 円)	
・ 国連大学協力会事業への寄付	一般寄付金 8 件 (10,140,000 円) 古本募金 9 件 (89,529 円) キモチと。 2 件 (51,183 円)	
継続寄付		18,475,000 円
・ jfScholarship 賛助会費	個人会員 6 件 (1,870,000 円) 法人会員 20 件 (16,400,000 円)	
・ 一般賛助会費	個人会員 21 件 (205,000 円)	
令和 6 年能登半島地震緊急支援の寄付	法人 1 件 (30,000 円) 個人 (含：募金箱) 31 件 (748,114 円)	778,114 円
合計額：		29,550,826 円

国 連 大 学 へ の 助 成 (Grants for UNU)		金 額
・ 国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムの 大学院生奨学金助成 Scholarship Grants for the UNU-IAS Postgraduate Programmes		12,960,000 円
・ 国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムの 教育活動に対する助成 Education Support Grants for UNU-IAS Postgraduate Degree Programmes		2,800,000 円
・ 国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムの 機材整備等に対する助成 Grants for UNU-IAS Equipment maintenance, etc		220,000 円
・ 国連大学グローバル・セミナーに対する助成 UNU Global Seminar		600,000 円
・ 国連大学本部における教育研究のための施設整備費 Maintenance of UNU Centre Facilities		5,000,000 円
・ 国連大学図書館の蔵書購入費 UNU Library Book Procurement Grants		50,000 円
合計額：		21,630,000 円

災害復興支援助成 (Grants for Disaster Recovery Support)		金 額
・ 能登地域 GIAHS (世界農業遺産) 推進協議会に対する助成 Grants for Noto Regional Association for GIAHS Promotion and Cooperation		500,000 円
・ 能登里山里海マイスターネットワーク (NPO) に対する助成 Grants for Noto Satoyama Satoumi Meister Network		800,000 円
・ ミライノトモシビ (一般社団法人) に対する助成 Grants for Miraino Tomoshihi Association		100,000 円
・ 能登島自然の里ながさき (NPO) に対する助成 Grants for Notojima Shizen no Sato Nagasaki		100,000 円
・ のと復耕ラボに対する助成 Grants for Noto Fukko Laboratory		220,000 円
合計額：		1,720,000 円